

琴浦町第3回ワークショップ実施レポート

2020年12月22日(火)

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (arg)

実施概要

- 第3回まなびタウン再生ワークショップ
- 開催日時：2020年12月12日(土) 13:30-16:30
- 開催場所：まなびタウンとうはく
- 参加人数：45名(役場職員含む)

プログラム

タイムテーブル			
オリエンテーション	13:30-13:35	はじまりのあいさつ(5分)	小松町長
	13:35-13:45	これまでのふりかえり/本日のプログラム(10分)	arg
第1部	13:45-13:55	自己紹介・前回のグループ内共有(10分)	
	13:55-14:15	リノベーションの先進事例紹介(20分)	畝森・teco 設計共同体
	14:15-14:25	休憩(5分)	
第2部	14:25-14:35	利用体験ストーリーをふりかえる(10分)	グループ ワーク
	14:35-15:35	〈テーマと問い〉についてみんなで想像/創造しよう(60分)	
	15:35-15:40	休憩(10分)	
第3部	15:40-16:10	各グループの発表(30分) ※3分×8グループ	
	16:10-16:25	レビュー/まとめ(15分)	設計、arg
	16:25-16:30	おわりのあいさつ(5分)	田中教育長

ワークショップの内容

前回のワークショップで町民のみなさんが作成した「利用体験ストーリー」の分析をもとに、新しいまなびタウンのあり方を考えるにあたって重要だと思われる7つのテーマと問いを抽出しました。そのなかから、各グループ割り当てられたテーマ1つと、グループで選んだテーマ1つと、2つのテーマついて、各グループで考え意見やアイデアを模造紙に付箋で貼っていきました。

■ストーリーから見えたテーマについて想像／創造しよう

まなタンを考える上で大切な7つのテーマのなかから、2つテーマを選ぶ

- ①親子で安心して過ごせる場をつくる
- ②町民が活躍できる場、町民が必要とされる場をつくる
- ③待ち時間もポジティブに過ごせる場をつくる
- ④新しい日常（ウィズコロナ／ポストコロナ）における、人の集まる場をつくる
- ⑤家・学校・職場以外の「居場所」をつくる
- ⑥町民の「知る」を支える場をつくる
- ⑦琴浦町の魅力を発信する場をつくる

■ストーリーから見えたテーマについて想像／創造しよう

選んだ2つのテーマについて、想像／創造し、シートにまとめよう

【例】

テーマ【①】	親子で安心して過ごせる場をつくる
問い【①】	当事者だけでなく周囲の人も支援に参加するためにはどうしたらいいだろう？
問い【①】への 解決案を考えよう	
テーマ【①】の 実現のためには どんな空間・場が あるといいのだろう	
テーマ【①】の 実現のためには どんな機能・サービスが あるといいのだろう	



【付箋の記録】

- 様々な世代の人が集まる空間をつくる
- 地域の人が気軽に立ち入れるような場、何人かで座れる場所
- 分かりやすい心理学やセラピーを学んだり共有したりできる
- 子ども用の天井の低い場所、小さなあそび場
- 子どもスペースみたいに区切るのではなく、周囲にいる人からでも見れて開放的な場をつくる
- “おてつだいよろず相談所”のようなものがあると良いな
- 父親の養成（父親の協力が足りない）
- 子どもが走れる、叫べるゆとり

現在子育てに参加できていない、父親、祖父母、学生、地域の高齢者が子育てについて学ぶプログラムや、活動に参加しやすいような開放的な環境の整備が求められていることが読み取れます。親が気軽に相談したり、頼ったりできるような場を求める一方、“人材バンク”や“よろず相談所”のようなシステムが整備されていないと、気軽に相談することができない、心理的なハードルがあることがうかがえました。親子だけでなく、子ども同士、親同士の交流を求めており、親子それぞれの人間関係の広がりを期待していることがわかります。

琴浦町内の人材のマッチング

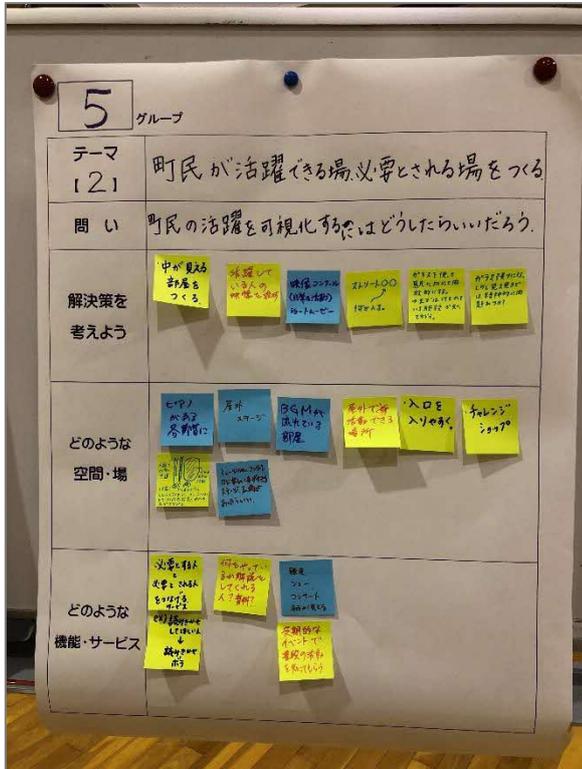
世代で区切らない、シームレスな空間

交流が生まれる場

学びのプログラムの整備

テーマ②：町民が活躍できる場、必要とされる場をつくる

問い：町民の活躍を可視化するにはどうしたらいいだろう



【付箋の記録】

- ・ 屋外で活動できる場所
- ・ チャレンジショップ
- ・ 必要とする人と必要とされる人をつなげるサービス
- ・ 発表できる場をつくる
- ・ 生活の中に「まなタン」を組み込む、サイクル
- ・ サロンのようなスペース、掲示板、ポスト
- ・ 自分のスキルを活かす。次の世代のためにできることをする
- ・ 町民活動のコンシェルジュ

なにをやっているか、どのように活動しているかが日常的に伝わるような場やメディアが必要とされています。他方、活動したい気持ちはあるが、どのような活動があるかわからないため、誰かに案内してほしいという受動的な姿勢であることが伺えます。また、能力を活かしたい人、助けが必要な人をつなぐマッチング機能が必要とされていることもわかります。グループ6では、「自分のスキルを活かして次の世代のためにできることをする」という意見を、テーマ①「親子で安心して過ごせる場をつくる」とつなげて、短時間のベビーシッターをするというアイデアが出ており、2つのテーマをつなげて課題解決をしようとする思考が見えます。

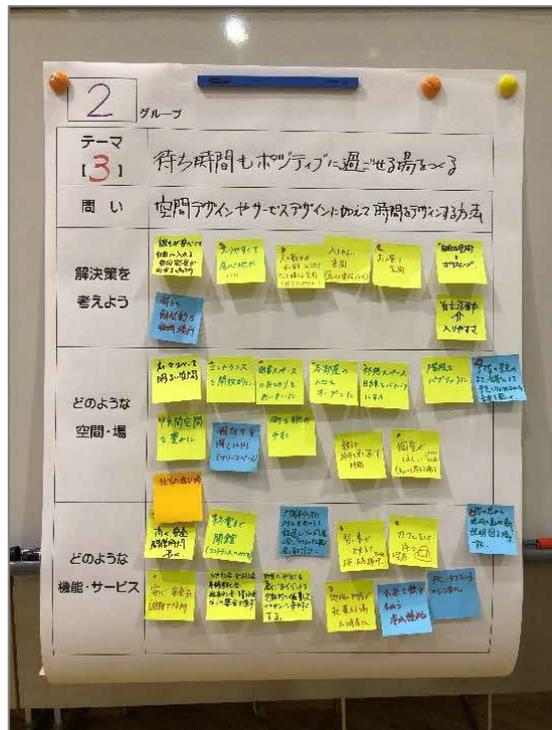
琴浦町内の人材のマッチング

活動の記録や情報を可視化する

学びのプログラムの整備

テーマ③：待ち時間もポジティブに過ごせる場をつくる

問い：空間デザインやサービスデザインに加えて、時間をデザインする方法を考えよう





【付箋の記録】

- お茶をしながら PC を利用して図書館での知の共有（もっと調べたり）
- インスタ映えスポット
- どんな行事、講座をしているかわかりやすく、申込しやすい
- 誰もが安心して自由には入れる。毎回発見が出来る場所
- おしゃべり空間
- 個室がほしい、パソコン、スマホ。（ちょっと考える場）
- お茶を飲みながら本が読める
- 30分でできる〇〇シリーズ（食事、散策、勉強）
- 長編マンガ読破…楽しみになる
- いるだけで新しい知識を得られる場
- 地元の情報を知ることができる（TCCの映像などテレビでみる）

【付箋の記録】

- 屋上の活用、広い空間でのイベント
- 壁をなくし、1つの空間にまとめる
- 日中の部と夜の部と、時間を分けて集まれる（テーマごとに）
- まなタンが拠点で、各地区単位に集まれる ネットワークでつなぎ、同じことをする
- 毎月テーマを決めて募集→掲示→参加者に意見を返す
- オンラインで会話ができる（交流）
- Zoom ができるスペース。PC・タブレット・wifi 完備
- デジタル機器の使い方を教えてもらえる。デジタル支援員（ICT 支援員）

物理的な過密を避けるため、開放的な空間や、屋上の活用等、通気性を意識した意見が多くみられました。「新しい人の集まり方」については、オンラインでの交流だけでなく、時間差、地域の分散等、回数や場所を分けることで一度に大勢を集めずに交流できる新たな方法を提案しています。テーマ④の問いである「新しい人の集まり方を町民とともに創造していく方法を考えよう」をワークショップのなかで実践できていたのではないかと思います。他方、これまで当たり前だった人が集まる楽しやライブ感など、その場でしか味わえないことの価値を見直していることもうかがえます。

ICT を活用したコミュニケーションの場

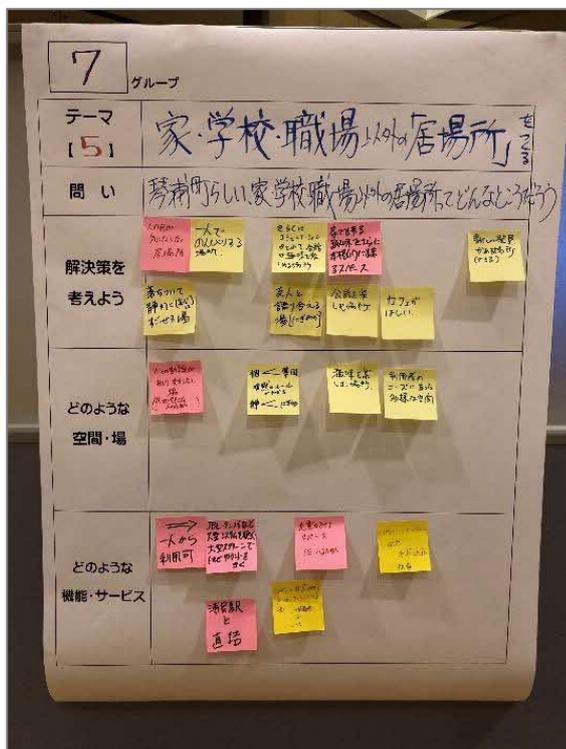
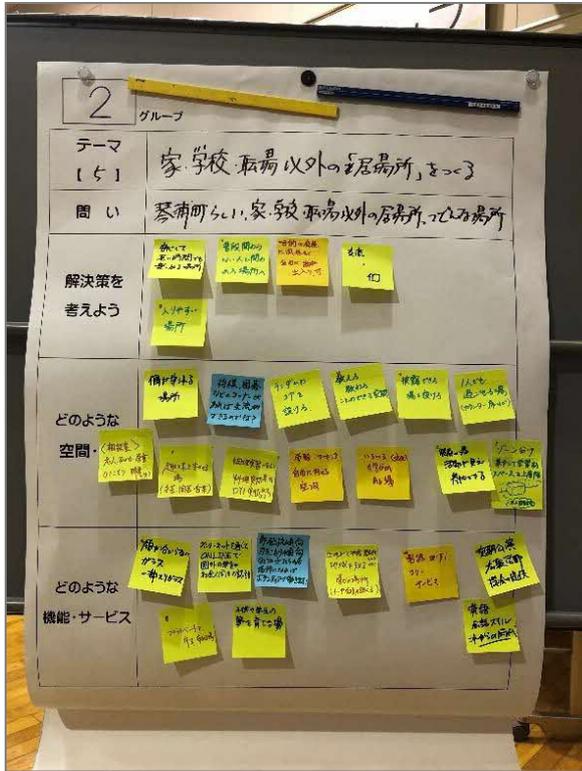
屋外も含めた敷地の有効活用

学びのプログラムの整備

交流が生まれる場

テーマ⑤：家・学校・職場以外の「居場所」をつくる

問い：琴浦町らしい家、学校、職場以外の居場所ってどんな場所だろう



【付箋の記録】

- 普段関わらない人と関われる場所へ
- 目的の有無に関係なく、自由に出入り可
- 個が守られる場所
- 顔が分からない、一部すりガラス
- インターネットを通じてオンラインで国外の学生や社会人同士の談話
- 教える、教わることのできる空間
- 自分で欲しい空間の大きさをつくれる
- 日常的であると同時に特別な場所に。期間限定で泊まれる場所に。まなタンは情報の拠点→ここを拠点に活動
- 新しい発見がある（できる）場所
- 趣味を通して人とつながる場
- 学校に行けない子が行ける
- 家で出来る趣味をさらに本格的に出来るスペース

自由テーマとしてテーマ⑤を選ぶグループが2グループあり、このテーマへの関心の高さがうかがえます。求められていることは大きく2つに分けられると考えます。1つは、普段は関わらない人々と交流ができる場、もう1つは自分一人になれるプライベートな空間です。オンでもオフでもない別の自分になれるような場を求めていることが推察されます。新たな交流を生み出す場として、にぎやかな空間づくりや、コミュニケーションのきっかけとなる趣味や特技を活かせる場づくりをあげており、テーマ②ともつながる部分が見受けられました。

ひとりでもみんなでも、選択できる空間

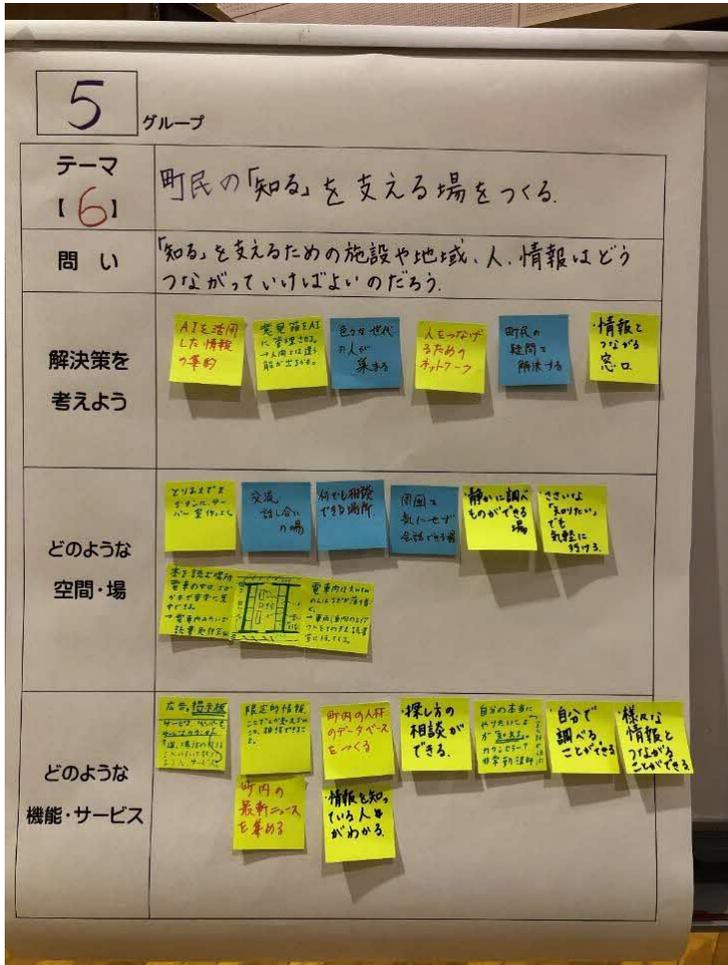
交流が生まれる場

活動の記録や情報を可視化する

ICTを活用したコミュニケーションの場

テーマ⑥：町民の「知る」を支える場をつくる

問い：「知る」を支えるための施設や地域、人、場所はどうかつなげていけばよいのだろう



【付箋の記録】

- AI を活用した情報集約
- 町民の疑問を解決する
- 情報とつながる窓口
- ささいな「知りたい」でも気軽に行ける
- 電車の中はなぜか本や音楽に集中できる→電車内のレイアウトをそのまま読書室に持ってくる

- 探し方の相談ができる
- 何でも相談できる場所
- 限定的情報 ここでは知ることができないこと、相談できること
- 自分の本当にやりたいこと（全人類の疑問）が「知れる」カウンセラー？
- 町内の人材データベースをつくる

ちょっとしたことを人に聞きたい等、その人の経験による知識に価値を感じていることが伺えます。ささいなことを人に聞いたり相談したりしたいという意見は、テーマ①とも連動する部分があります。また「探し方の相談がしたい」等、現在の図書館でもできるようなこともあげられており、レファレンス等の図書館サービスが町民に浸透していないことがうかがえます。リニューアルにあたり、既存のサービスの情報発信の方法についても検討する必要があるのではないかと思います。また、そもそも自分の知りたいことがなにかわからない、カウンセリング的に相談したいという意見もあり、「知る」ということを広義でとらえる必要があると考えます。

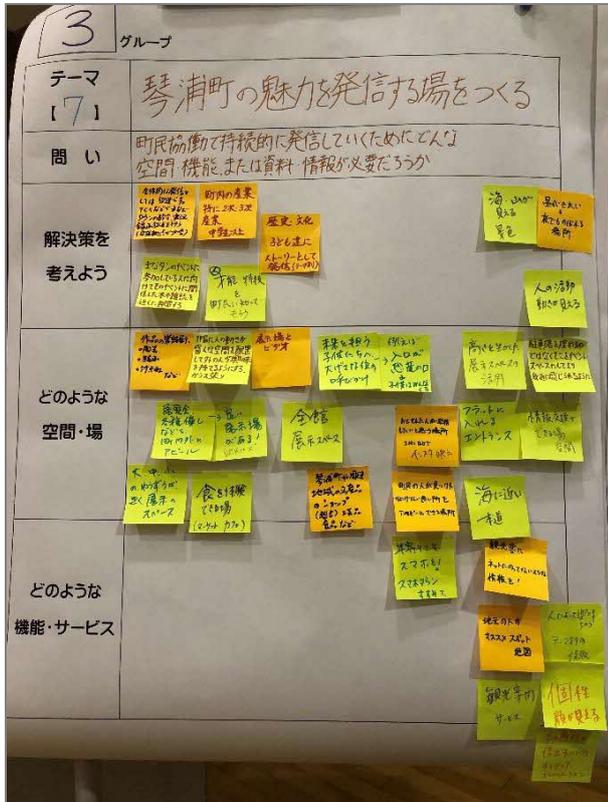
琴浦町内の人材のマッチング

活動の記録や情報を可視化する

ICT を活用したコミュニケーションの場

テーマ⑦：琴浦町の魅力を発信する場をつくる

問い：町民協働で持続的に発信していくために、どんな空間・機能または資料・情報が必要だろうか



【付箋の記録】

- 歴史・文化、子ども達にストーリーとして発信（テーマ別）
- 町民の人が見つけたなにげない良いところをアピールできる場所
- まなタンのイベントに参加している人に向けてそのイベントに関係した本や雑誌を近くに配置する
- 全館展示スペース
- 訪れた人が発信したいと思う場所（インスタ映え）
- 観光案内サービス
- 展覧会、各種催しなどを町内外にアピール
- 隠れた特技をもった人を発掘する

- やりたいことがある人を支援して発信してもらう
- 大型ディスプレイで町内のことを紹介する
- SNS 町の様子を発信（写真・映像）

書籍やネットにも載っていないような情報や地元の人のココミの情報等、ここでしかわからない情報を発信したいという意向がみられた。「琴浦町の魅力」を場所だけでなく、琴浦町に住む人の魅力という点でもとらえており、町民や町民の活動を発信したいという意見も多く見られた。活動を発信する場づくりでは、テーマ②とつながる部分がみられた。

琴浦町内の人材のマッチング

活動の記録や情報を可視化する

屋外も含めた敷地の有効活用

以上